
夏の思い出

飴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の思い出

【コード】

N9414M

【作者名】

飴

【あらすじ】

お題：廃墟

ある日、ゲームに負けて肝試しをするはめになった、ヒロユキとユウコの夏の思い出話。

「ねえ、もうやめようよ」

前に行くヒロユキはかまわずすすん進む。

「ねえってばー!」

仕方ないので私も続く。

ここはこの地域では有名な廃墟ビル。3階建てでコンクリートで出来ており、窓ガラスは割れ放題、ツタもからみ放題。周囲も森に囲まれていてカラスの一声ですら、十分に雰囲気醸し出せる場所だった。

私とヒロユキはクラスの友だちとゲームに負けてここに来ている。

「いくら罰ゲームだからって、ここ危ないし、もう戻ろう?ねえ!」

私はヒロユキの袖を思い切り引っ張ってみた。

キツとにらみをきかせてヒロユキは言う。

「こんなのどうってことないだろ。この石置いてくればいいだけなんだからさ」

泣きそうな目で見つめる。

「そんなに嫌ならユウコはここで待ってるか?」

それこそ嫌だ。涙をこぼしながら首を振った。

「じゃあ行こうぜ」

突然、ゴオツと背後で音がした。

キヤア!

思わず叫んだ。

「ばっか、ただの風だって。行くぞ」

なぜこの男の子はぐんぐん進んで行けるのだろう?全く怖くないのだろうか……。

「手、つないでいい……?」

ヒロユキは少しの間を開けてから、手を握ってくれた。

「ありがとう」

心底ほっとした。これでヒロユキの勇気も分けてもらえる気がした。

途中何度か叫んだが、ようやく石の置き場所にたどり着いた。

「よし。さっさと戻ろうぜ」

半泣きの笑顔で首を縦に振った。

歩き出そうとしたその時、部屋がふつと暗くなった。時計を見るとまだ夕方の4時。夏のこの時期に暗くなるには早すぎる。ただでさえ薄暗い廃墟の中は、真っ暗に近くなった。

1、2分もするととても雨降ってきた。割れた窓からもざーざーと雨が降り込んでいる。

「これじゃ外に出られねーな……。ユウコは震えてるし。どうしたもんかね」

「そう言われても怖いものは怖いのだ。」

「なあ」

珍しくヒロユキのほうから話しかけてきた。

「なに？」

「さっきから階段のほうで何か動いてる気がする……」

言われた瞬間、鳥肌が立ち、足がすくんで座り込んでしまった。

「へ、変な事言わないでよ!」

「ウソなんか言うかよ」

「いやだいやだいやだいやだ!」

もう泣いてしまいたかった。いや、とつくに泣いていた。

「階段のほう、見てみるよ……何かが動くんだ」

涙をぬぐい、おそろおそろ階段のほうを見る。

ぞぞぞ

動いた。人間の子どものほどの何か黒いものが動いた。

「ひろゆき……いた……」

声にならない声で報せた。

ヒロユキも声を出さず、うんと頷いただけだった。
身を潜めるように二人動かずに、じっと雨が止むのを待った。

ふっと部屋が明るくなった。通り雨が過ぎ去ったのだ。

はっとして階段のほうを見やると、もう何もいなかった。窓から夕陽が射し込んで、綺麗に茜色に染まっていた。

無事、外に出るとクラスメート達が「遅かったなー！」と迎えてくれた。

ヒロユキは「雨が降って来ちゃったからな」とはぐらかし、あの黒くてざざっと動くものについては何も言わなかった。

私も何も言わないことにした。

無言の二人の怖い怖い夏の思い出。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9414m/>

夏の思い出

2011年10月7日16時10分発行